

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	12	学校名	各務原西高等学校
------	----	-----	----------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	単位制の特長を活かし個に応じた多様な学びを可能とする高校として きめ細かな指導による学力の伸長と、探究的な学びの充実を通して 未来を創る基礎となり、社会で生きる学力の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	1 生徒一人一人を大切に、その全人的な発達を図る。 2 学ぶことを愛し、豊かな情操と健全な心身を養い、自らの可能性を追求して個性を伸ばし、 将来における自己実現の能力を培、国家及び社会の有為な形成者となるとともに、 国際社会においても貢献できる人材の育成を目指します。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、自ら考え判断し、適切な行動ができる生徒（「好學時習」） ・幅広い視野をもって、主体的に自らの進路や社会の未来を切り拓く力を身に付けた生徒（「質実剛健」） ・調和のとれた豊かな人間性や社会性、多様な人々と協調・協働する力を備えた生徒（「互敬友愛」） 	
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> ・個の進路希望に応じた多様な選択科目と少人数クラス編成による「主体的・対話的な深い学び」の推進 ・課題を発見し探究する力や地域社会に貢献できる実践力を育むため、探究的な活動やキャリア教育の実践 ・他者を思いやり認め合いながら、人との関わりの中で成長できるよう、学校生活全般において様々な経験を重ねることが出来る機会の提供 	
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ意欲をもち、発展的な学習に進んで取り組もうとする生徒 ・学習のみならず、部活動や生徒会活動、ボランティア活動など様々な活動にも積極的に取り組みたい生徒 ・高い規範意識をもち、豊かな人間性や社会性を身に付けたい生徒 	
学校の抱える課題	本校が大切にしてきたものや生徒のよさに対して 前例踏襲の事例が多く、現状に甘んじている。 対外的にアピールできていないと気が痛い。 期待される学校に対して職員の認識の低さが気になる。		
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標	
	学校経営	全教職員が学校の課題解決に取り組み、明るさと活力に満ちた「規律ある進学型単位制高校づくり」を進める。	
	学習指導	学習指導の仕組みの確立とICT機器活用による教育活動の推進を図る。	
	進路指導	生徒自らが希望する進路を実現できるように、確かな学力や専門的な知識・技能を身に付けさせる指導を充実させる。	
	生徒指導	主体的な判断や責任ある行動ができる生徒の育成、及び安全で安心な学校生活が送れるよう全職員で組織的な生徒指導を行う。	

年度目標				年度末評価(自己評価)			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	県教育振興 基本計画での 位置付け	達成度の判断・判断基準 あるいは評価指標	取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合 評価 A. B. C. D
学校経営	①人間関係の円満な、風通しの良い職場になるよう 報告・連絡・相談を徹底します。	施策IV-28	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート ・エントリーシート ・疲労蓄積度チェック ・個人情報チェック ・勤次郎 	①少しづつではあるが風通しの良い職場に なりつつある。 ②今年度で新教育課程を実施したことを踏ま え各教科で課題をあげ、教育課程委員会で 検討した。 ③時間外勤務の多い職員に対して、配慮を するなど、適正化に取り組んだ。	B	○諸問題に対し組織的に迅速に対応すること ができるつつある。さらに相談しやすい 組織の枠組みを構築していく。 ▲時間外勤務の解消に向け、一層のブラッシ アップの必要がある。	A
	②新学習指導要領の趣旨を踏まえ、単位制高校の特色 を活かした教育課程を編成します。	施策IV-20					
	③教職員の長時間勤務や多忙化解消をすすめること ともに働きやすい職場づくりを推進します。	施策IV-27					
学習指導	①1年次の初期指導および学習サイクルの構築を 図ります。	施策II-8	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート ・授業アンケート ・学習時間調査 	①1年次に対して、国数英の3教科を2時間 連続で特編授業を組み、初期指導を行った。 また、Classiによる学習時間調査を定期的 に行うことで生徒の家庭学習の定着を図った。 ②互見授業を通して、授業改善を図った。 ③補習授業の中で、発展学習を行い上位層の 学力向上を行った。	A	○それぞれの取り組みにより、職員間での 2 をさらに図り、職員間の連携を密にしなが らさらなる検討と改善を行う。	A
	②自己研修・互見授業等によって、ICT機器等を活用 した授業改善を行います。	施策II-9					
	③発展的な学力を身に付けさせるため、補習授業等 を一層充実させます。	施策II-8					
進路指導	①適切な進路情報を提供し、主体的な進路探究に取り 組めるよう指導します。	施策II-8	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート ・授業アンケート ・進路アンケート ・模試試験結果 ・進路状況 	①各年次、時期と対象者の状況に応じた講 演会が実施でき、進路意識高揚につながった。 ②生徒のレベルや目的に応じた補習を実施 することができた。 ③進路の手引きを活用し、キャリアプランを 作成し実施した。	B	○進路指導部と年次団が進路学習の目的を 共有し、協力して各企画を実施した。 ▲入試の早期化に対応するために、意識 付けを図るとともに学習習慣の定着を図る ことが重要である。	A
	②志望に応じた指導を充実させ、大学入試に対応 できる学力を身に付けさせます。	施策II-8					
	③3年間を見通したキャリアプランを作成し実施 します。	施策II-8					
生徒指導	①MSリーダーズによる挨拶運動とともに身だしなみを を整える活動を行います。	施策I-7	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケート ・遅刻数 ・心のアンケート 	①挨拶については、挨拶運動の啓蒙活動も あり、改善傾向である。 ②遅刻防止に努めることができたが、一部の 遅刻の多い生徒への対応に苦慮した。 ③支援が必要な生徒への対応は、組織的に 対応することができた。	A	○大きないじめ事案はなかったが、引き続き 担任や部顧問との連携、アンケートなどの 活用で早期発見早期対応に努める。 ▲担任と保護者と協力して遅刻防止に努め ていく。	A
	②安易な遅刻を防止します。	施策I-7					
	③支援が必要な生徒の情報を把握し、組織的に対応 します。	施策IV-21					

来年度に向けての改善方策等 実施日：令和8年1月14日

<ul style="list-style-type: none"> ・繁忙期の組織を超えた協力体制の在り方を検討する。（働き方改革） ・時間割の中に教科会を設定し、3年間を見通した進路指導の在り方をより一層検討する。また、年次会の中で課題の出し方等を調整する。（教科指導） ・低学年からの学習習慣をつけることにより、基礎学力の定着を図る。（学習習慣） ・支援が必要な生徒には、早期から組織的な対応をする。（教育相談） ・意見を出しやすい組織（3人チーム）をつくり、学校の活性化を目指す。

学校関係者評価 実施日：令和8年1月29日

<ul style="list-style-type: none"> ・この地域において学びの場が多いの事実である。そのような環境を上手く活用していることに感謝している。様々なことに触れていくことが大切である。 ・生徒自身が、何事にも自分たちで考えていくことが大切である。社会のルールなどバランスを考えながら自分たちで決めたことを自分たちで守っていくことができることが理想である。
--